≪JECK創立7周年記念セミナーから≫

工業化が進展するベトナム
―裾野産業支援派遣で各工場を訪問―

小谷　泰三（JECK会員）

1. ベトナム SI 支援派遣の経緯

私は JICA 専門家として 2001 年 9 月から 2 年間ホーチミン計画投資局に派遣され、中小企業を支援した実績が買われ'04 年 1 月から 3 月の 2 か月間、ベトナムの裾野産業支援及びベトナム裾野産業と日系進出企業とのネットワーク形成のため日本開発協会専門家として再度ベトナムに行ってきた。今回の派遣に関しては JETRO ホーチミンや計画投資局の推薦があったことが大である。

2. ベトナムの機械産業の現状

ベトナムの GDP は、世界不況にもめげずここ数年来、中国同様 7 パーセント程度の成長を遂げてきている。工業生産指数では、年 10 パーセント以上の伸びを持続している。日本経済のマイナス成長に比べ、中国・ベトナムの成長は目を見張るものがある。今後中国・ベトナムの成長を止めるものがあるとすれば、米英軍を中心とするイラク攻撃による石油資源の高騰と世界同時不況に襲われた時と言えるだろう。今ベトナムは活気に富んでいる。よく、バイク部品の輸入制限や関税の引き上げばかりのニュースが取りざたされており、日本にいるとベトナムの実態が正確に見えてこない。ホーチミンを闊歩するとバイクの洪水に遭遇する。ここで走っている 6 割以上がホンダのバイクであり、交通渋滞や交通事故の原因になっているとなると、国がバイクの規制に乗り出すのももっともと頷ける。

南部地区は、繊維・衣料、食品産業機械、農業関係、医薬品、建築や工芸品のための比較的軽量の機械産業が主で、北の首都ハノイ周辺の鉄鋼業をはじめとする重工業・自動車・バイク産業中心とは様相を異にしている。

ベトナム工員は技能レベルが高く、働く意欲が高いので、韓国・台湾やシンガポールの工場経営者が、この地で彼等を使って事業発展を図る様子が目立つ昨今である。

3. 地元企業とネットワーク化

今回はホーチミンを中心とする南部地域の SI 企業 12 社を日系企業の機械メーカーの経営者と一緒に見学する機会を得た。これらの日系企業の中には、既に 60 パーセント以上も国産部品を使っている企業もあり調達専門部署を設け、出来るだけコストダウンになるよう真剣に対中国対策を考えている企業もあった。一般の中堅・中小の進出日系企業は、日本人の管理者・技術者が少人数しか派遣されておらず、今回のようなベトナムの SI 企業を見て回る企画に多くの期待が寄せられた。参加企業の経営者は、ベトナムの機械工業の裾野分野（鋳造、鍛造、金型、ダイキャスト、板金、ボルト・ナットなど）が今まで描いていたより進歩してきているのに感心していた。中には早速図面を渡し、サンプル部品の生産を依頼している企業もあった。5S や資材管理がきちんと行われている企業も増えてきている。また、CMC マシーンや CAD/CAM も活用されており、工業系の優秀な大学生を採用するのも難しくなりつつあり、リクルートに力を入れる企業も増えてきている。また、日系進出企業が地元 SI 企業に何を望んでいるのか実態調査も行われ、30 社の地元機械・電気メーカーからの回答も得ている。さらに、ベトナム企業 50 社が日系企業を見学したり、工業局や工科大学など行われ、このことが地元新聞にも報道されるなどの成果を得た。

≪ベトナムのバイク関連企業を訪問して≫

――ベトナム工業省モーターサイクル産業マスタープラン策定支援――

日越共同イニチアチブに基き JICA 専門家として上記のマスタープラン策定支援のため 2005 年 9 月から 4 ケ月間派遣される機会を得た。日越イニシアチブは、'02 年 12 月に開催された支援国会合で、服部在越日本国大使が、ベトナム